

## 《薬局サーベイランスコメント》

『2019年第9週のインフルエンザの推定患者数は約22万人と5週間連続して減少。流行はまだ継続しており、春休みに入るまでは注意が必要』

2019年3月5日

済生会中津病院感染管理室

安井 良則

今シーズン（2018/2019年シーズン）の2019年第9週（2月25日～3月3日）のインフルエンザの推定患者数は、220,544と前週の値（340,050）よりも減少し、5週間連続しての減少となりました（図1）。また、週明けの月曜日（2019年3月4日）の推定患者数は37,869と前週の月曜日の値（56,912）を下回っており、インフルエンザの患者数は更に減少していくものと予想されます。

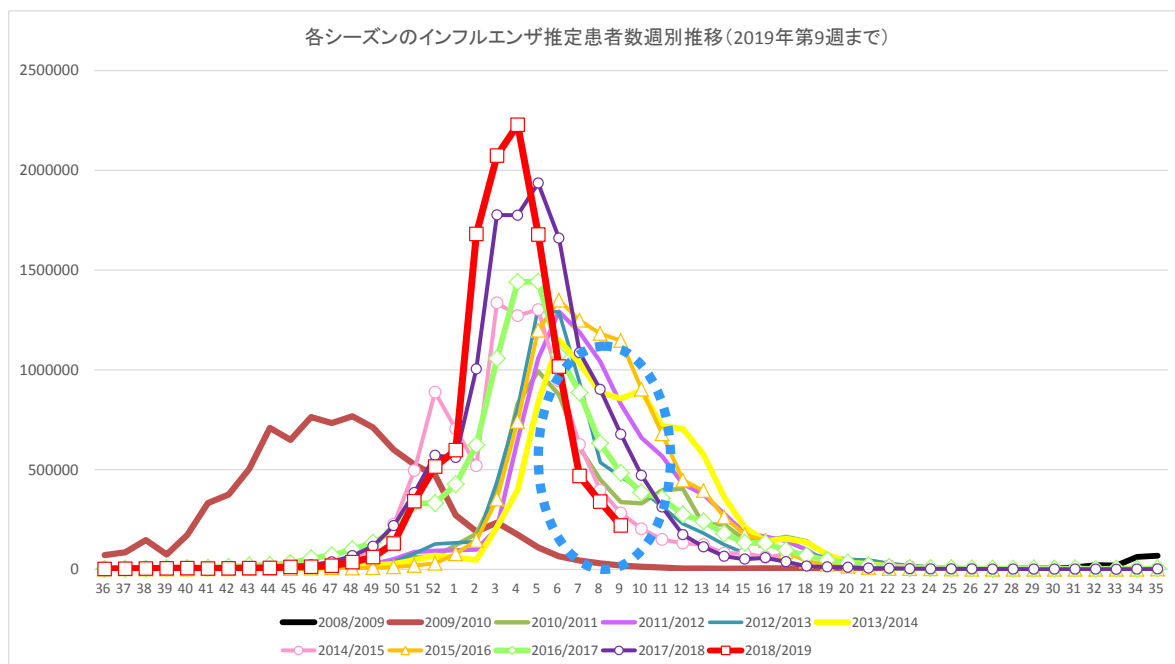


図1. 過去10シーズンと今シーズン（2018/2019年シーズン）の第36～第9週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2019年第9週の推定患者数：220,544）

各都道府県別の第9週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると秋田県、福井県、山形県、北海道、新潟県の順となっており、秋田県を除く46都道府県で前週よりも減少がみられました。

2018年第36週から2018年第9週までの累積の推定患者数は11,478,138であり、2018年10月1日現在の人口統計を元にした累積罹患率は9.06%でした。年齢群別で

の累積罹患率は5～9歳（30.24%）、10～14歳（22.21%）、0～4歳（21.52%）、15～19歳（11.76%）、30～39歳（9.54%）、20～29歳（8.89%）、40～49歳（8.38%）、50～59歳（6.83%）の順となっていて、例年と比べると成人層の罹患率が高くなっています（図2）。

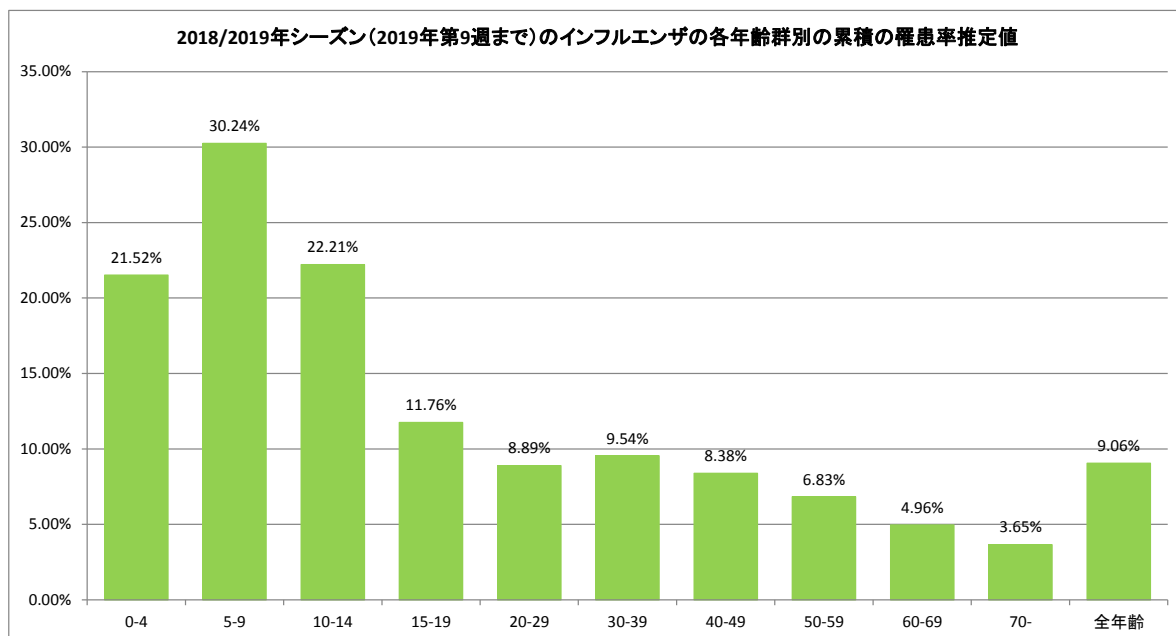


図2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値（2018年第36～2019年第9週、累積推定患者数=11,478,138）

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>）によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（3,467 検体解析）は、A/H1pdm が49.7%と、A/H3（A 香港）亜型48.8%、B型1.5%とA/H1pdm とA/H3 亜型がほぼ同数となっています。一方、1月に入ってからではA/H3（A 香港）亜型の検出数が多数を占めている状態が続いています（図3）。

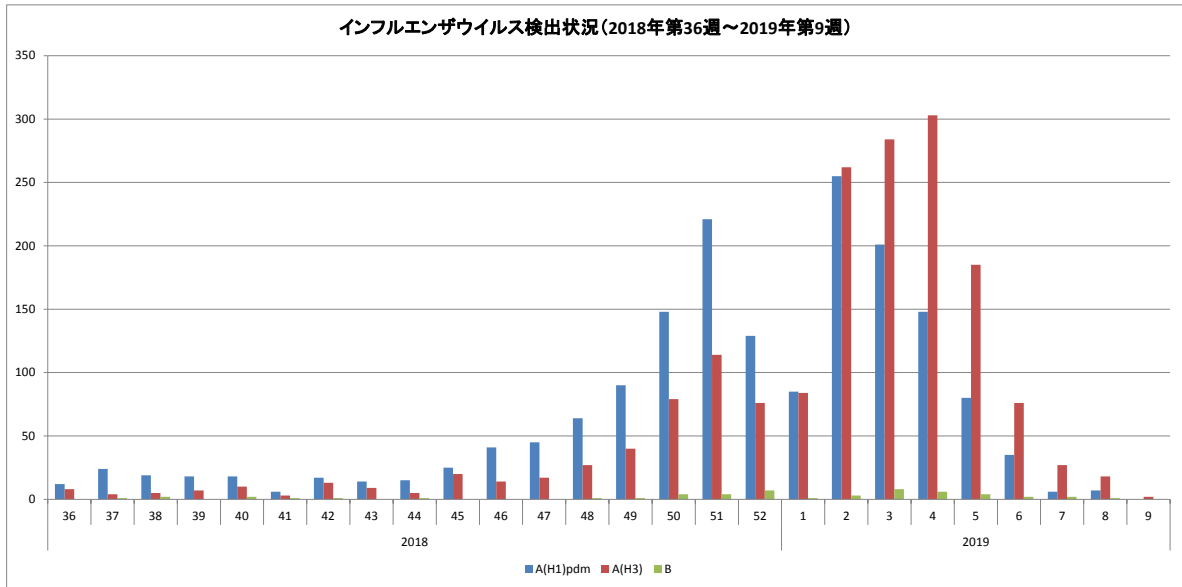


図 3. 国内のインフルエンザウイルスの検出状況の週別推移（2018 年第 36 週～2019 年第 9 週；国立感染症研究所病原微生物情報 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html> より得られたデータを解析）

2019 年第 9 週のインフルエンザの推定患者数は約 22 万人と 5 週間連続して減少がみられました。患者数は減少傾向にありますが、まだインフルエンザの流行は継続しており、学校等が春休みに入るまではまだ注意が必要です。